

修学旅行新聞

発行所 財団法人 全国修学旅行研究協会
発行人 前田 寛
東京都千代田区西神田
1-7-7 (電話) 2932
262 2426 (東京)
2丁目 (電話) 6-36337
電振

新時代へスタート

(財)全修協第28回総会開く



総会であいさつする山本理事長 (3月11日、グランドヒル市ヶ谷)

国際化、国鉄民営に対応

修学旅行の発展を期す

財団法人全国修学旅行研究協会の第二十八回通常総会が三月十一日、東京都新宿区のグランドヒル市ヶ谷に役員、支部長、協力団体代表が全国から参集、多数の来賓を迎えて開催された。山本理事長のあいさつ、来賓祝辞の後、本部から提案された議案を審議してこれを決定、新時代へ向けての力強いスタートを誓った。

当日は十一時から第六十五回理事会、引き続き十四時三十分から本会総会において第二十八回総会を開催した。物故者に対する黙祷の後、村山助雄常務理事が開会のことばを述べ、岡本清理事を議長に選出、議長から議事録を

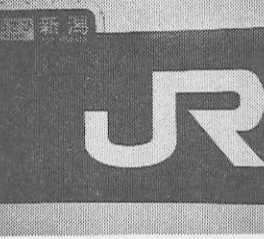
財団法人全国修学旅行研究協会第二十八回通常総会開催にあたり、多数が参集賜りましたことを深謝いたします。協会創立三十一年を経過し、確固たる地位を築くことができましたのも、教育一筋に結集した皆様のご協力の賜と改めて御礼申し上げます。昨年来、国際情勢のきびしい環境の中にあつて、日本の教育文化についても見なおしが行われ、国際化時代を迎えんとしております。教育界では臨教審第三次答申、教課審答申など、今後の学校教育のあり方が方向づけられる重要な年となりました。この年にあたり、協会は修

修学旅行は、学習を社会に移したもので、生活指導及び集団訓練の好機会であり、教育計画の一環として行う学校教育上極めて重要な行事である。従つて修学旅行を安全かつ有効に実施するための企画及び運営を科学的に調査研究して、常にその改善に努力しつづつ教育効果の充実に努め、必要あり教育界に課せられた責務である。(財団法人 全国修学旅行研究協会の趣意書から)

出発進行！

JRグループが発足

国鉄は百十五年の歴史を閉じ、JRグループとして新しくスタートした。三月三十一日は全国各地でお別れ行事が行われ、東京の秋葉原には久しぶりのSLが登場、惜別の汽笛を鳴らした。明けて四月一日、七鉄道会社は北海道・東海・四国が入社式、東日本・九州・貨物が発足式、西日本が開業式をそれぞれ行い、各社のシンボルカラーの新しいバスを胸に、車両に大きなJRマーク



車両に大きなJRマーク

から、第一号議案昭和六十二年度事業計画ならびに収支予算に関する件を白滝末紀専務理事からそれぞれ提案、いずれも全会一致承認された。続いて第二号議案昭和六十二年夏季修学旅行の募集推進に関する件を林孝雄支部長から、三千七百名の目標必達を提案、これを万場一致可決し、高田治郎理事の開会のことばをもって、十六時三十分終了した。

第二十八回通常総会

あいさつ(要旨)

財団法人全国修学旅行研究協会 理事長 山本 種一
会社においても、一層の理解と協力をされるよう要請したいと考えています。研修旅行の分野におきまされた、二十世紀へ向けての修学旅行の未来像を築きた企画立案に創意工夫をこらし

之久、池端清一(参議院議員) 本岡昭次、山本正和(文部省) 教科調査官高橋哲夫(友誼団体等) 全国教職員福祉団体連絡協議会、全国教職員互助団体協議会、日本教育公務員弘済会、日本教育者生活協同組合、全国学校用品協、日本生活協同組合連合会学協支所、関東地区公立中学校修学旅行委員会、東海三県中学校修学旅行委員会、東京私立中学校高等学校協会

全修協理事に

鈴木力氏

山梨県支部長に山口昭氏

財団法人全国修学旅行研究協会では、理事に四月一日付で新しく鈴木力(すずき・りき)氏を選任した。鈴木氏は若手出身、岩手師範学校本科を卒業後、同県内小学校教諭を経て、昭和四十一年から参議院議員(全国区)を二期務め、現在株式会社印刷センター代表取締役。財団法人全国修学旅行研究協会の山梨県支部長に、四月一日付で山口昭氏が就任した。山口氏は昭和二十年海軍師範(中国)卒、山梨県内小・中学校教諭、組合役員を経て昭和五十一年から山梨県教職員互助組合専務理事の要職にある。

社員一丸となって再生を誓った。車両にも新しいJRマークがつけられ、主要駅では記念行事が繰り広げられた。「国民の足」としてのダイヤ、運賃制度は従来どおりで、みどりの窓口の営業時間を5時30分から23時まで延長するなど、明るさとサービスをモットーに、大変身を遂げている。また、鉄道公安官は「警視庁鉄道警察隊」と改称したが、国電の名称は未だ決まっていない。以上を総括して、第四回全国修学旅行研究大会の開催をはじめ、研究調査、情報活動を積極的に進め、修学旅行連合輸送計画の策定と父母負担軽減をはかり、研修旅行においては活力ある運動を展開して、目標の達成に最大の努力をばらいたいと念願します。協会は多年にわたる事業遂行力により、安定、創造、団結を旗印に、新たな決意をもつて一層の前進を期する所存であります。

シルクロード文化講演会開催

シルクロード文化講演会「奈良」日本人の心の源流を訪ねる
日時 昭和六十二年七月三十日(木) 十三時三十分～十七時
場所 奈良県文化会館大ホール(奈良市)
講師 (1)早稲田大学教授 長澤 和俊氏 (2)NHKチーフ (三)面に関連記事)

京都古都税問題 未だ解決せず

京都市の古都税問題は、四月から一部で協力金方式に切り換えるなどの動きが出ており、未だ解決の見通しはなく、地方選挙後に持ち越される見込みで、銀閣寺、広隆寺など六カ寺が拝観停止のまま、春の修学旅行シーズンに入ることは必至となった。また、泉涌寺は四月から純粋な参拝者に限り無料で入山を認めることとなり、団体での拝観はできない。問題の一日も早い解決を望みたい。

ねがわくは花のしたに香死なむ、そのきささぎの望月の頃(山家集)花の季節ともなる、西行のファンタジックなこの歌が蘇ってくる。お水取り、関西では冬と春のけじめのつく時季である。梅から桜までほぼ一カ月ばかり、さらには一月おくれ、フジ、ボタン、ツツジの花と、旅の誘いが多彩だ。西行は花の季節も末の七日(旧暦三月二十七日) 奥の細道の旅に出た。菜の花畑と白装束の巡礼の面影は、筆者の少年の日の追憶にある。花重るこの季節の風物詩、この頃はバスを借りての四国遍路だが、昔ながらのしきたりは残っている。竹の秋、と俳句でいう季節でもある。京都を中心とする関西では竹の子は欠かせない季節の味覚だが、江戸には竹の子を食べる習慣はなかったようだ。京都と東京の樹葉の色合いと枝ぶりの風趣は、関西の豊富な水と花崗岩の風化した砂まじりの土壌と岩石、湿気のデリケートな関係と、これに對照的な武蔵野の火山灰が樹木を早く育ちに成長させるなどのちがいにあろう。ヨーロッパの画家が見て、ヨーロッパの風土がある。ヨーロッパの画家が見て、ヨーロッパの風土がある。

ねがわくは花のしたに香死なむ、そのきささぎの望月の頃(山家集)花の季節ともなる、西行のファンタジックなこの歌が蘇ってくる。お水取り、関西では冬と春のけじめのつく時季である。梅から桜までほぼ一カ月ばかり、さらには一月おくれ、フジ、ボタン、ツツジの花と、旅の誘いが多彩だ。西行は花の季節も末の七日(旧暦三月二十七日) 奥の細道の旅に出た。菜の花畑と白装束の巡礼の面影は、筆者の少年の日の追憶にある。花重るこの季節の風物詩、この頃はバスを借りての四国遍路だが、昔ながらのしきたりは残っている。竹の秋、と俳句でいう季節でもある。京都を中心とする関西では竹の子は欠かせない季節の味覚だが、江戸には竹の子を食べる習慣はなかったようだ。京都と東京の樹葉の色合いと枝ぶりの風趣は、関西の豊富な水と花崗岩の風化した砂まじりの土壌と岩石、湿気のデリケートな関係と、これに對照的な武蔵野の火山灰が樹木を早く育ちに成長させるなどのちがいにあろう。ヨーロッパの画家が見て、ヨーロッパの風土がある。ヨーロッパの画家が見て、ヨーロッパの風土がある。

信頼される旅づくり
先生たちとの修学旅行「いつまでもわすれません！」
生徒の心にあざやかにつづられる、ツーリストの修学旅行。
先生と、そして友と行った修学旅行。かけがえのないふれあいがよき思い出としてひとりひとりの心に残る、そんな旅にしてあげたいですね。ワールドワイドなネットワークを通じて、ツーリストがお世話する修学旅行は、各方面より多大なご好評を得ています。それぞれの教育方針に添った国内・海外の修学旅行なら、なんなりと近畿日本ツーリストにご相談ください。
近畿日本ツーリスト 本社 千101 東京都千代田区神田松永町19-2 ☎(03)255-7111代 支店 国内242ヵ所(登録) 海外14ヵ所
C 運輸大臣登録一般旅行業第20号

